



## 企業や市場ニーズに対応した技術開発を

商工労働部長 時田 光一

本県においては、これまで、企業誘致や基幹産業である農林水産業、観光などの産業振興に努めてきておりますが、いまだに、産業基盤が脆弱であると考えております。

一方、アジア経済は、引き続き目覚ましい成長を続けており、その中で、アジアのゲートウェイに位置する九州は、その地理的優位性から、我が国のアジア戦略の最前線として期待されております。

このような状況を踏まえて、北部九州を初め九州各県は、自動車産業を含めた産業振興の取り組みを強めており、本県もこのような状況を一つの好機としてとらえ、第二次産業を中心に産業基盤の強化に全力で取り組んでいく必要があると考えております。

このため、豊富な人脈と幅広い知識を有する民間出身者の活用による人的ネットワークを構築し、次世代の基幹産業を担う企業に対する誘致活動を積極的に展開するとともに、食品産業、電子関連産業、自動車関連産業に対する研究開発や製品開発等の支援など、戦略的な産業振興への取り組みを進めているところであります。

これまで、工業技術センターは、「技術的拠りどころ」として、地域企業等との産学官連携による共同研究等を積極的に推進し、その研究成果を地域企業に技術移転し、実用化や商品化を図りな

がら、本県産業の高付加価値化や技術の高度化に寄与してきております。その結果、本県の地域資源であるシラスを活用した製品や高香気生成酵母を使用した焼酎の開発など大きな成果をあげております。今後、戦略的な産業振興に向けた取り組みを進めるに当たっても大きな役割を担っていくと考えております。

このような中で、本年度は、これまでの研究テーマである「高機能難燃性マグネシウム合金及び溶接部材の疲労強度特性評価」や「バイオ集積化チップの性能及び信頼性評価」等に加え、新たな研究テーマとして、「タケノコ加工残渣を原料とした機能性食品素材の開発」、「木質系廃棄物からのエコカーボンボードの開発」等に取り組んでおります。

今後とも、地域企業の多様化するニーズや市場動向等を的確に把握し、地域の特性・資源を生かしながら、地域的課題等に即応できる研究開発に取り組んでまいります。

企業の皆様におかれましては、工業技術センターを十分活用しながら、新事業や新産業の創出に結びつく研究開発に取り組み、本県地域経済の活性化に大きく寄与していただきたいと思いますと考えております。